

# 千葉市アグリビジネス体験事業について

## ◆事業実施の背景

- 【現状】農業経営者の減少と高齢化により、本市農業の持続性が低下している状況
- 【課題】40代以下の青年農業経営者を確保する必要
- 【対応】本市農業の魅力を高め、本市で就農する若者を増やす

年齢層	～29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	計
2005	1	26	147	442	533	710	1859
2010	1	11	94	362	433	645	1546
2015	0	9	48	163	395	475	1090
2020	1	19	30	109	275	477	911
2030	1	10	10	39	186	325	571

※2005～2015：農林業センサス「年齢別農業経営者数（販売農家）」、  
2020：農林業センサス「経営主年齢層別別の経営体数（総数）」、  
2030：千葉市農政部にて試算

各段階に応じた  
施策を展開

## 未来の青年農業者育成事業（令和3年度～）

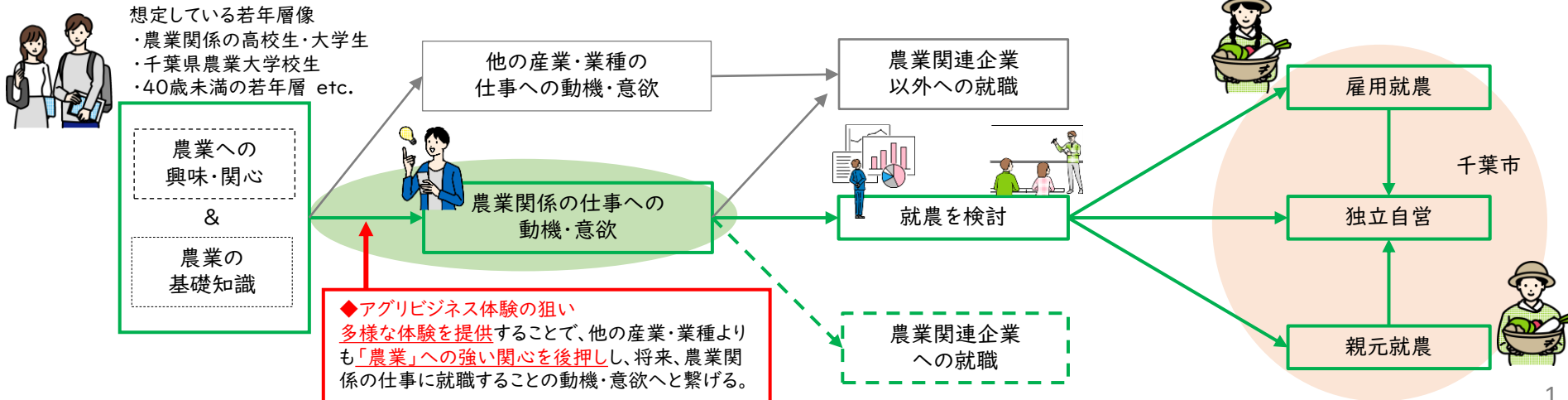
### 新規就農・地域の即戦力となる担い手へ

- ①農業経営を志す若者等 → ニューファーマー育成研修  
地域の担い手となる新規就農者（後継者を含む）を育成するため、生産の基礎から経営的視点の育成までを一貫した総合的な研修を実施。
- ②高校生・大学生等 → **アグリビジネス体験事業**  
将来的に千葉市で就農する農業者を確保するため、高校生や大学生等に対し、千葉市内の農業者のほ場等における農業体験や交流などの多様な体験を提供し、将来的な千葉市での就農意欲を高めるきっかけづくりを行う。
- ③小・中学生 → **次世代向け農育講座**  
土壌学や植物生理学などの本格的な農学や、農に関連する技術を実習中心に学び、実際に畑に出て五感を最大限活用して「農」を体感することで農業への関心を高め、将来の職業選択の1つとして農業を意識するきっかけづくりを行う。



## ◆千葉市アグリビジネス体験事業の目的

農業への興味・関心と農業の基礎知識を持つ若年層に対し、千葉市農業の多様な体験を提供することで、**他の産業・業種よりも「農業」への強い関心を後押しし、将来的に千葉市で就農することの動機・意欲へと繋げる。**



# 千葉市アグリビジネス体験事業について

## ◆令和6年度の実施状況(旧 農業インターンシップ事業)

農業者	時期	募集人数	参加人数	農業体験	交流体験
A社	7月(3日間) 8月(3日間) 8月、10月、12月 (計6日間) 3月(3日間)	20名	2名	○夏・冬野菜の収穫作業 ○収穫した野菜の出荷調整作業 ○除草作業	○農業法人についての説明 ○経営戦略についての説明 ○就農人生年表の作成
B社	8月～11月 (計4日間)	8名	3名	○落花生畑の管理作業 ○ゆで、煎り用落花生収穫の一連の作業	○経営理念の説明 ○販売・広報戦略の説明及び企画・提案 ○販売イベントへの参加
C社	8月、10月、11月 (計6日間) 2月(3日間) 3月(3日間)	12名	0名	○露地野菜の定植から収穫までの一連の作業	○農業法人についての説明 ○農業という職業の魅力について
D社	9月、12月 (計4日間)	5名	0名	○イチゴの定植体験 ○イチゴ栽培の一連の作業(収穫、パック詰め、手入れ等) ○イチゴ狩りの運営補助	○事業内容についての説明 ○就農したきっかけ等についての説明 ○イチゴ狩りを体験し、意見交換
E社	9月、10月 (計6日間) 3月(3日間)	6名	3名	○イチゴの定植に係る一連の作業(定植作業、定植後の直し、片づけ、等) ○観光農園の運営補助	○農園の概要の説明 ○農園リノベーションについてのディスカッション
合計		51名	8名		

### ☆参加者の声(農業関係の仕事への動機・意欲が高まった理由)☆

#### ●「農業」という仕事に対する印象に変化はあったか

農業にかかわる仕事をしている人ほど幸せを感じやすいということを読んでいたのですが現場の人は生き生きとしていて幸せに過ごせているのだろうなという雰囲気が伝わってきた。(受入先:A社)

単純作業で大変なことも多かったが、前と変わらず、農作業を楽しめた。

(受入先:A社)

販売法が現代化していることを知れた。(受入先:B社)

新規就農の支援が整っている。生産者の熱意が伝わった。(受入先:B社)

今回のアグリビジネス体験講座を通じて、ブランドとしての農業生産や、アピールをする方法、また、お客様との関わり、コミュニケーションをする方法などを学ぶことができたのでとても良い機会になったと思います。(受入先:B社)

#### ●自身が「農業」で働いているイメージを持てるようになったか

まだ模索中で具体的にはイメージを持っていないが、選択肢が増え、より考えられるようになった。(受入先:A社)

一部ではあるが農業流通を体験できた。(受入先:B社)

農家の方々と実際に生産、販売を体験したこと。(受入先:B社)

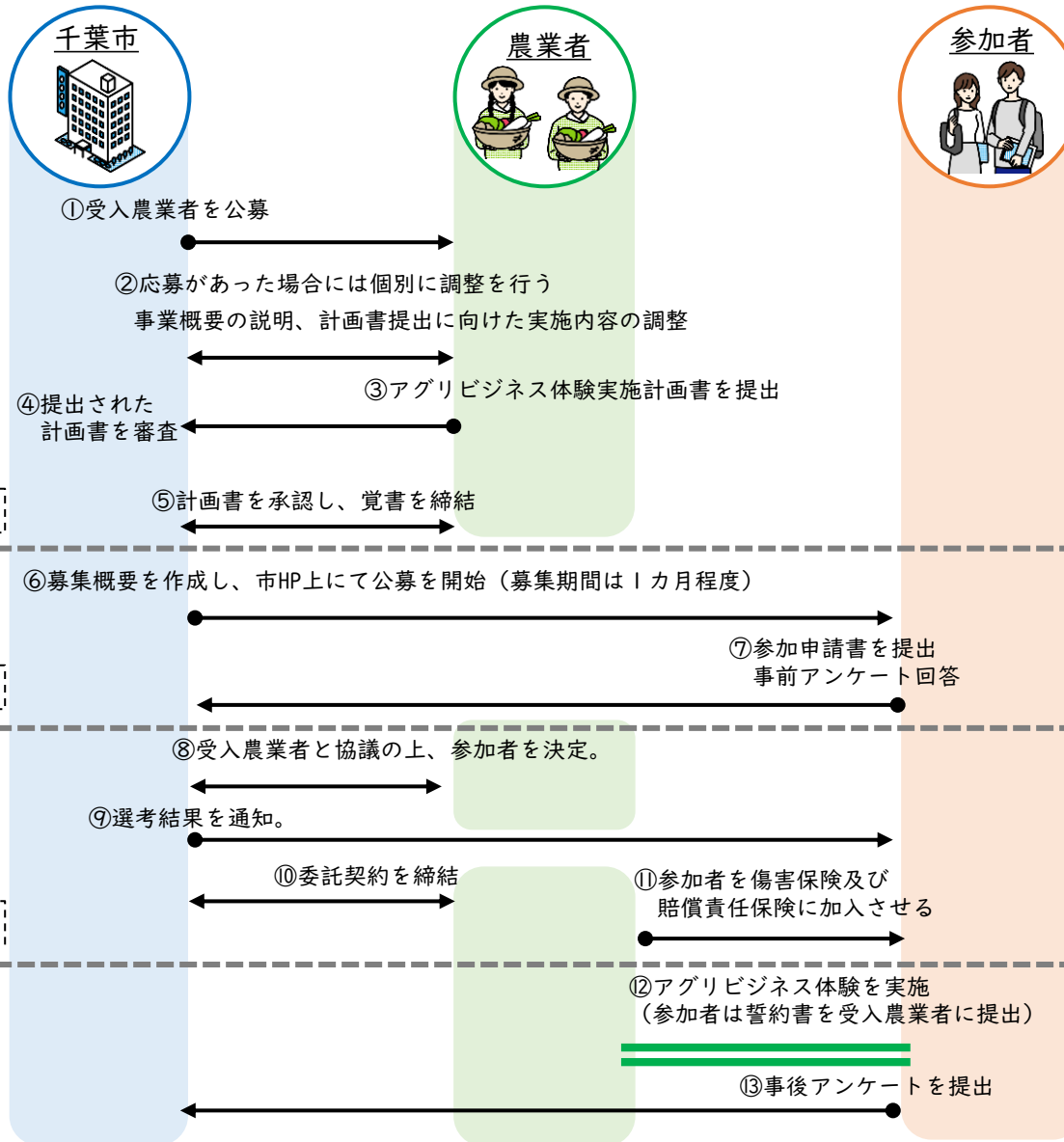
今回のアグリビジネス体験講座で生産(収穫)をしてから実際にマルシェ等で販売をするということを体験することができたので、それを通じて将来生産者になった時のイメージを持つことができたと思っています。(受入先:B社)

実際に接客を体験させていただいた。(受入先:E社)

# 千葉市アグリビジネス体験事業について

## ◆令和7年度千葉市アグリビジネス体験事業について

### 1. 事業の流れ



### 2. 事業に係る経費

アグリビジネス体験実施に係る、以下の経費は、委託料として、千葉市からお支払いします。(完了払い)

- (1) 人件費(／日) 10,000円
- (2) 食事代(／食・人) 昼食代 400円
- (3) 保険料(／人)
  - 1泊2日又は連続する2日まで 500円
  - 2泊3日又は連続する4日まで 500円
  - 6泊7日又は連続する7日まで 700円

### 3. 参加者の募集方法

市HPで公募を行う他、農業系の学部を有する大学等にPRを行います。

【PR予定先】

- 大学
  - 千葉大学、東京農業大学、玉川大学、日本大学、明治大学 etc.
- 農業大学校
  - 千葉県立農業大学校
- 高等学校
  - 千葉県内の農業科を設置している高校等 (茂原樟陽、薬円台、流山 etc.)

#### 当事業に関する連絡先

千葉市 経済農政局 農政部  
農政課 企画班 担当:渡邊  
TEL 043-245-5757  
E-mail [noseiEAA@city.chiba.lg.jp](mailto:noseiEAA@city.chiba.lg.jp)